

科目名	作業療法評価学演習【作業】					開講 キャンパス	神 埼
担当者	田 平 隆 行・小 松 洋 平・植 田 友 貴						
開講年次	2	開講期	通年	単位数	2	必修・選択	必 修 (作業)
授業の概要 及びねらい	関節可動域検査と徒手筋力検査は、身体障害分野の作業療法に必須の知識・技術です。これらの検査は、対象者の身体を検査者が直接操作する必要があることから、2人1組での実技を中心に講義を進めます。また、作業療法評価学で学んだ理論をベースとして、実際に精神機能や身体機能の評価法を講義と演習にて学習します。						
授 業 の 到 達 目 標	1) 関節可動域検査 (Range of Motion Test: ROM - T) について説明できる。 2) ROM - T に必要な解剖・生理学的知識を習得する。 3) ROM - T が実施し、結果を解釈できる。 4) 徒手筋力検査 (Manual Muscle Testing: MMT) について説明できる。 5) MMT に必要な解剖・生理学的知識を習得する。 6) MMT が実施し、結果を解釈できる。 7) 心理機能評価実施の注意点を理解し、感情・気分・不安・鬱の評価法の名称と目的を説明できる。 8) 認知機能 (高次神経障害) の評価法を修得し、代表的検査を実施できるようになる。 9) 高次神経障害の評価法名称と目的を説明できる。 10) 興味・役割・QOL の評価法の名称と目的を説明できる。 11) 身体機能評価の目的や留意点を理解し、各評価の正確な実施と評価結果の記載ができる。						
学習方法	演習と実習 (各自で空き時間を使って練習することも必要)						
テキスト及び参考書等	【テキスト】Helen J. Hislop & Jacqueline Montgomery「新・徒手筋力検査法」協同医書 作業療法評価学 第2版 岩崎照子 他 医学書院						
評価基準・方法	到 達 目 標					評価割合%	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験	◎	○				70	
小テスト等							
宿題・授業外レポート	◎	○	○			15	
授業態度							
受講者の発表							
授業への参加度			◎			15	
その他							
合 計						100	
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画 (学習内容・キーワードとスケジュール)							
前 期	第1週	関節可動域検査について (概要を理解する)					
	第2週	関節可動域検査 (肩関節、肘関節、前腕の ROM-T を学ぶ)					
	第3週	関節可動域検査 (手関節、手指の ROM-T を学ぶ)					
	第4週	関節可動域検査 (股関節、膝関節、足関節の ROM-T を学ぶ)					
	第5週	関節可動域測定 (頸部・体幹の ROM - T を学ぶ、ROM-T の復習)					
	第6週	徒手筋力検査について (概要を理解する)					
	第7週	徒手筋力検査 (上肢の MMT を学ぶ)					
	第8週	徒手筋力検査 (上肢の MMT を学ぶ)					
	第9週	徒手筋力検査 (上肢の MMT を学ぶ)					
	第10週	徒手筋力検査 (上肢の MMT を学ぶ)					
	第11週	徒手筋力検査 (下肢の MMT を学ぶ)					
	第12週	徒手筋力検査 (下肢の MMT を学ぶ)					
	第13週	徒手筋力検査 (下肢の MMT を学ぶ)					
	第14週	徒手筋力検査 (下肢の MMT を学ぶ)					
	第15週	実技・口頭試験と解説					
	第16週						
後 期	第1週	面接法					
	第2週	観察の視点 1					
	第3週	観察の視点 2					
	第4週	認知機能の評価					
	第5週	心理的評価					
	第6週	作業療法評価学総合演習 1					
	第7週	作業療法評価学総合演習 2					
	第8週	作業療法評価学総合演習 3					
	第9週	作業療法評価学総合演習 4					
	第10週	作業療法評価学総合演習 5					
	第11週	作業療法評価学総合演習 6					
	第12週	作業療法評価学総合演習 7					
	第13週	作業療法評価学総合演習 8					
	第14週	評価の記載、レポート作成					
	第15週	実技・口頭試験と解説					
	第16週						
備 考	実技は場合によっては相手をケガさせる恐れもあるため、真剣に取り組んで欲しい。他の学生に迷惑になる言動や行動をする者は受講を断ることもあり得る。服装は実習着及び実習靴を着用すること。作業療法評価学と作業療法評価学は互いに連携した講義を行うため、必ず双方を受講すること。授業外学習の指示：事前に講義範囲を提示するので、各自で予習してから受講すること。						